

令和2年度  
新潟大学歯学部同窓会学術セミナーⅢのご案内

超高齢化先進地域における超高齢者歯科  
—臨床奮戦する名誉教授のつぶやき—

講師 昭和村国民健康保険診療所  
福島 正義 先生



《ご略歴》

1978年 新潟大学歯学部卒業(8期生)  
1982年 新潟大学大学院歯学研究科修了(歯学博士)  
1986年 新潟大学講師・歯学部附属病院(第1保存科)  
2001年 新潟大学助教授・歯学部附属病院(総合診療部)  
2004年 新潟大学教授・医歯学系(口腔生命福祉学科)  
2018年 福島県・昭和村国民健康保険診療所 歯科長 現在に至る  
2019年 新潟大学名誉教授

《認定医等》

日本歯科保存学会・歯科保存治療専門医、名誉会員  
日本接着歯学会・接着歯科治療終身認定医、元会長  
日本老年歯科医学会・終身認定医、名誉会員  
日本歯科審美学会・終身認定医、学会顧問  
日本歯科理工学会・Dental Material Senior Adviser

日時：令和2年11月29日(日) 10:30～12:00

オンラインにて開催(Zoomを使用します)

対象者：同窓会員限定 先着100名

参加費：無料

今回は新潟大学歯学部同窓会学術部として初のWeb講演会であることを記念して、参加費は無料といたしました。本学にてご活躍された後、地域医療にご尽力されていらっしゃる福島正義先生の貴重なご講演ですので、奮ってご応募くださいますよう、お願い申し上げます。

主催：新潟大学歯学部同窓会

お問い合わせ先 新潟大学歯学部同窓会学術部  
gakujutsu@dent.niigata-u.ac.jp

## 《抄録》

私は大学で35年間、教育、研究、臨床に従事したのち、2018年4月から福島県の奥会津にある高齢化率56%（全国28.4%,2019年）の山村でただ一人の歯科医師として働いている。人口約1,300人のこの村は80歳代人口がピークであり、歯科患者の半数は後期高齢者である。この村も老老介護、認知介護、認知症高齢者の一人暮らし、車椅子あるいはいざり移動しながらの一人暮らし、8050などの高齢者問題が常態化している。そのため高齢者の生活を配慮することなしに歯科臨床は成り立たない。いわゆる高齢者歯科は口腔機能維持により健康寿命を伸ばすリハビリ要素が強い。しかし、私がいう超高齢者歯科は人生終末期における口腔由来の感染予防と経口栄養摂取を維持しながら、平穏死が迎えられようにお口を終わらせることを思考するものである。健康・自立状態は暦年齢が上がるほど個人差が大きくなるため、高齢者を単純に暦年齢で区切ることは現実的ではない。自力で歯科診療所に通院できる高齢患者は通常 of 成人治療に準じて対応できる。しかし、とくにMCI・認知症は臨床的対応を変える大きな分岐点と考えられる。認知症でお口のセルフケアや義歯の着脱ができなくなり、介助ケアが不十分だと短期間で根面う蝕が多発して、残根化し、咬合崩壊する場合がある。この状態は歯科専門職にとって悪夢である。8020達成後には「80根面う蝕20」、そして人生終末期に急速に歯を失うという現実を認識する必要がある。歯を保存することが歯科医の仕事と言われる。しかし、その前にこの歯を保存する意義があるかどうかの高度な判断が求められる。「無歯顎で生まれ、無歯顎で死ぬ」というパターンは必ずしも歯科の敗北とは言えないことを日頃感じている。

本講演では超高齢化先進地域であるこの村での自分の専門性をベースにした歯科医療の実際と私が提唱する根面う蝕マネジメント「SDF法」を紹介する。

## 申し込み方法

※セミナー申し込み方法はメール受付のみです。携帯電話から送信する場合は必ずドメイン(@dent.niigata-u.ac.jp)指定受信の設定をして下さい。

※メールの申し込み順に「申し込み確認票」をメール送信いたします。

※以下の必要事項を新潟大学歯学部同窓会学術部(gakujutsu@dent.niigata-u.ac.jp)にメールでご連絡下さい。

タイトルは「同窓会学術セミナーⅢ 申し込み」として下さい。

必要事項 氏名:

卒業年度(何期):

メールアドレス:

※申し込み締め切りは令和2年11月20日(金)です。

※日本歯科医師会会員の先生方は、日本歯科医師会生涯研修事業の単位を取得できます。